

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

夏休み宿題ワークブックと自由課題に取り組んで

今年の夏休み、初めて宿題ワークブックを子どもたち自身が選ぶ形にしました。斐太北型イエナプラン教育の一歩として「自分の学びを自分でつくる」試みです。保護者の方と一緒に見本を手にする機会をつくり、子ども自身に自分に合った課題を選んでもらいました。

今回は、夏休みの自由研究風に、この取り組みをまとめて紹介してみることになりました。

1 取組の背景

従来の夏休み宿題ワークブックは全員同一であった。しかし、子どもの学びの多様化に応じる必要があると考え、本年度から「選択制」を導入した。あわせて、作文・科学研究・理科作品・図画工作コンクールなどの自由課題にも取り組めるようにした。

2 取組の実際

- ◇ 複数種類のワークブックを展示し、保護者と相談しながら選択できる環境を整備。
- ◇ 自学・自由課題は任意とし、子どもが関心をもとに取り組むことを、子どもや保護者に説明して実施。

3 成果(教職員の見取りや児童への聞き取りから)

- 主体性の発揮**：「自分で選んだからやる気が出た」「やりごたえのある課題を選んだ(いつもはすぐに終わってしまうから、あえてたくさんワークを選んだ)」など、学習意欲が高まった。
- 学びの広がり**：ワークを終えて、自学に取り組み、「外国について調べたい」と取り組んだ子がいた。
- 新しい自由課題への多様な挑戦**：
 - ・「自学に没頭できてよかった」「毎日自分で選んだ自学をすることが楽しかった」など選択を楽しむ姿
 - ・低学年を中心に「妙高市民の心作文」などの作文課題に取り組む姿
 - ・エコ写真や習字課題など、これまで同様の課題に安心して取り組み続ける姿
 - ・科学研究や理科作品に少数ながらこだわりをもって楽しむ姿
 - ・各学年で複数の子が図画工作の各種コンクールへの挑戦する姿
- 内省の芽生え**：「自分に本当に合っていたのか」「自分が選んだワークブックに英語がなくて残念」「もっとよく考えて来年はワークブック選びたい」と振り返りながら自己評価をする姿

4 課題と考察

- ・**選択に伴う不安**:低学年から寄せられた「課題はみんな同じほうがいい」という感想は、責任をもつことへの不安や、同調を重んじる学校文化に起因している可能性がある。主体性と集団文化のはざまで揺れる姿としてとらえ、2 学期の授業改善に生かしていく。
- ・**選択肢の限界**:ワークブックの英語課題が不足していた際に、「自分で探して英語の課題に挑戦してみよう」という自己補完的な学びにつながらなかった子がいた。支援の工夫が必要である。
- ・**自由課題の分布**:習字や標語、図工は取り組みやすい一方、科学研究や各種作文コンクールへの挑戦は少数であった。探究的課題への裾野をどう広げるか、多様なアプローチを促す支援が課題である。日常の授業改善につながる課題でもある。

5 まとめ

選択制ワークブックと自由課題は、子どもの主体性や創造性を引き出すと同時に、「責任を伴う選択」や「文化的同調圧力」といった課題を浮かび上がらせた。自由課題では、子どもたちの探求心や創造性が確実に育ちつつあることが確認できた。本校における夏休みの学びは、目指す子ども像『自分の考えを創り出す子』の姿を育む試みとして、また斐太北型イエナプラン教育の一步として意義深いものである。今後は、保護者との対話を基盤に、選択肢の充実と自由課題の多様化を図りながら、学びの仕組みを改善していきたい。

この夏の取組は、子どもたちに「自分で学びを選ぶ喜び」と「選ぶことの難しさ」の両方を体験させるものとなりました。保護者の皆さまには、ぜひお子さんの感想やご家庭での様子をお寄せください。皆さんの声をもとに、子どもたちの学びをさらに豊かにしていきたいと考えています。

始業式の校長のプレゼンで、「2 学期も、自分で選び自分で進む学びに取り組めます」と説明しました。ある子は「早く授業でやってみたいんだよね」と話していました。また、「自分で選んで楽しかった!」という子どもの言葉を聞いて、「これはやるしかない!」と斐太北型イエナプラン教育と ESD の親和性を前提に、目の前の子どもたちと自分らしく学ぶことが楽しみでわくわくしている職員がいます。夏休みに当校の教職員も、自ら研修を積みました。HP でも紹介していますので、見てください。



ホームページ



各教室の廊下に夏休みに取り組んだ作品が掲示されています。9 月 10 日 (水) の授業参観時に、ぜひ、いろいろな学年を見て回ってください。